

科目コード	R5026	授業科目名	解剖学					
履修区分	必修	開講期	1年	通年	授業回数	30回	単位数	4単位
担当者	牧田 亨介							
授業の概要	医療・保健に従事するものにとって、最も基本となる人体の構造と機能について学修する。 理学療法士・作業療法士は直接ひとの身体に触れ、治療的手段を行使する職種であるので、人体の構造と機能について医療職のなかでも特に専門的な知識が要求される。また健康な人体を学ぶ最初のものとして、人体の各系統について、その構成、各器官の肉眼解剖的構造と位置や相互関係、またその組織構造について学修する。特に理学療法・作業療法に密接に関連する運動器については深く学修していく。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							—
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							△
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	基本的な人体の構成(頭部/体幹/四肢 それらの中の各部位の名称・位置関係)を理解し、呼称できるようになる。 ・主な骨、靱帯、筋肉、神経について、名称および位置的関係、靱帯の付着部位、筋の起始停止ともたらず運動、神経の走行と支配について述べられるようになる。							
履修上の注意事項	・1年次必修科目「解剖学実習」(R5027)と内容を共有し、連続した授業として行います。詳細は第1回の授業で説明します。 ・本科目で扱った内容の一部は、1年次必修科目「生理学」(R5028)と共有します。							

成績 評価方法	前期・後期 それぞれで(暫定的な)評定点を出し、それを合算して通年の評定点を出す 期の途中で行う中間テスト:40%、 前期・後期 各期末試験:60% 課題などを課した場合、中間試験の割合に組み入れる ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。	
教科書	書名・著者(出版社)	
	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 野村巖・編 (医学書院)	ISBNコード 978-4-260-03922-2
参考書	解剖学講義 改訂3版 伊藤隆・原著 高野廣子・改訂 (南山堂)	978-4-525-10053-7
	シンプル理学療法作業療法シリーズ 運動器系解剖学テキスト 細田多穂・監修 (南江堂)	978-4-524-26203-8
	ソッカの美術解剖学ノート ソク・ジョンヒョン・著 チャン・ジニ・訳 (オーム社)	978-4-274-50715-1
教員からの メッセージ	自分自身を含めたひとの身体に興味を持ってください。日常の中でも、身体がどのようにできていて、どのように動いて(動けなくて)、どうバランスが保たれているのかを意識することを望みます。	
教員との 連絡方法		
実務経験の ある教員		

授業計画 (前期)	回数	講義内容	事前・事後学修
	第1回	解剖学とは、解剖学用語	身体の各部分の名称を再確認する、自身の体に触れたり動かしたりして人体がどのようなつくりになっているか把握する(240分)
	第2回	骨格総論	骨および軟骨の組織のつくりを復習する、教科書の各骨の図を参照し、骨の部位の名称のイメージをむ(240分)
	第3回	骨格各論(1) 頭蓋、脊柱、胸郭	各椎骨の構造、椎骨が集まった脊柱の構造を確認する(120分)肋骨の形を把握し、胸骨の構造を理解する(120分)
	第4回	骨格各論(2) 上肢の骨	上腕骨・橈骨・尺骨の各骨の配置、つながりと各骨の部位の名称を再確認する(240分)
	第5回	骨格各論(3) 下肢の骨	骨盤の立体的構造を理解し、腸骨/坐骨/恥骨の位置関係、各部位の名称を確認する(240分)
	第6回	骨格各論(3) 下肢の骨	脛骨・腓骨・足部の骨の名称と配置、つながりを確認する(240分)
	第7回	骨格各論(4) 頭蓋	頭蓋全体の形状、眼窩・鼻腔などの構造を理解する(120分)頭蓋を構成する個々の骨を調べ、予習する(120分)
	第8回	関節靱帯総論(1) 関節の構造と機能	可動関節の基本的構造を理解する(60分) 形態による関節の分類について、図や身近なものを参考に運動の方向を考察する(180分)
	第9回	関節靱帯総論(2) 人体の関節と運動の名称	自分の体の関節を各方向に動かし、それぞれの運動名称を復習する(240分)
	第10回	関節靱帯各論(1) 上肢の関節	肩関節、肘関節の構造について復習する(240分)
	第11回	関節靱帯各論(2) 下肢の関節	下肢の骨の各部位について復習する(120分) 骨盤の構造および股関節について学習内容を確認する(120分)
	第12回	関節靱帯各論(2) 下肢の関節	下肢の関節全般について構造と運動方向、名称を確認する(240分)
	第13回	関節靱帯各論(3) 頭蓋、脊柱の関節	体幹の運動方向、名称を復習する(60分) 肋骨の運動による胸郭の変形について、参考図書などを利用して理解する(180分)
	第14回	筋系各論(1) 上肢帯の筋	肩甲骨に付着する各筋について、起始/停止と走行を確認し、筋の作用と結び付けて理解する(240分)
	第15回	筋系各論(2) 上肢の筋	前腕に筋腹を持つ各筋について、起始/停止と走行を確認し、筋の作用と結び付けて理解するとともに前腕における位置を確認する(240分)
授業計画 (後期)	第16回	筋系各論(3) 下肢帯の筋	股関節を稼働させる各筋について、起始/停止と走行を確認し、筋の作用と結び付けて理解する(240分)
	第17回	筋系各論(4) 下肢の筋	下腿に筋腹を持つ各筋について、起始/停止と走行を確認し、筋の作用と結び付けて理解するとともに下腿の中での位置関係を確認する(240分)
	第18回	筋系各論(5) 頭頸部・浅胸部・浅背部の筋	浅胸部・浅背部の筋について、起始/停止と走行を確認し、筋の作用と結び付けて理解する(240分)
	第19回	筋系各論(6) 胸部・腹部・背部の筋	背部の筋、特に脊柱起立筋について、どのような種類の筋からなっているかを復習する、また体幹の筋全体について確認する(240分)
	第20回	内臓学 総論、循環器系	内臓全体の配置と機能的関係について復習する(60分)心臓の構造と大血管の名称、血液の流れ、全身の動脈の繋がりと名称を理解する(180分)
	第21回	末梢神経系(1) 脊髄神経 総論	脊髄神経全般の構成(頸/胸/腰/仙骨の各神経、前根と後根、前枝と後枝等)を復習する(180分)脊髄の構成を調べ、脊髄神経との繋がりを理解する(60分)
	第22回	末梢神経系(3) 脊髄神経-腕神経叢	腕神経叢の構成、上肢に入る主な神経の走行・感覚分布・筋の支配 を整理して確認する(240分)
	第23回	末梢神経系(4) 脊髄神経-胸神経	肋間/肋下神経の走行を確認し、ここまでの脊髄神経について整理して復習する(240分)
	第24回	末梢神経系(5) 脊髄神経-腰仙骨神経叢	坐骨神経の走行・感覚分布・筋の支配 を整理して確認する(60分)神経の障害について、その症状を各神経の走行・支配と比較して理解する(60分)
	第25回	末梢神経系(6) 脳神経	各脳神経の走行と役割を理解する。特に複数の役割を持つものについては自分なりに整理して理解する(240分)
	第26回	中枢神経系(1) 脊髄	脊髄全体の構造、脊髄節の構成と脊髄神経とのつながりを理解する(180分)髄膜の構造を復習する(60分)
	第27回	中枢神経系(2) 脳幹	脳幹の構造を立体的に想像しながら、学習した各部位がどこにあたるのかを整理して理解する(240分)
	第28回	中枢神経系(3) 小脳	小脳の構造を理解し、運動機能の中での役割、大脳・脳幹との連絡について復習する(240分)
	第29回	中枢神経系(4) 大脳皮質、髄質	大脳葉ごとの皮質の役割、機能局在について整理しながら復習する(240分)
	第30回	中枢神経系(5) 神経路	上行性の神経路について感覚の種類と経路(脊髄・脳幹のどこを通るか)を対応させて復習、理解する(240分)

科目コード	R5027	授業科目名	解剖学実習					
履修区分	必修	開講期	1年	通年	授業回数	30回	単位数	2単位
担当者	牧田 亨介							
授業の概要	解剖学で身につけた知識に基づき、理学療法士・作業療法士にとって必要な運動器を中心にそれに深く関与する神経系のほか、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系などについて、人体模型、人体標本、視聴覚機材等を用いて実習を行い、解剖学の見地を深める。構成器官の構造的特徴、そして機能的特徴をより深く理解していくことが、目標となる。 また、実際のご献体を用いる解剖見学実習については実施に向けて関係機関と調整中である。実施できる場合には別途連絡し、本科目の授業枠組みの中で行うこととする。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							—
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							△
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	基本的な人体の構成(頭部/体幹/四肢 それらの中の各部位の名称・位置関係)を理解し、呼称できるようになる。 ・主な骨、靱帯、筋肉、神経について、名称および位置的関係、靱帯の付着部位、筋の起始停止ともたらす運動、神経の走行と支配について述べられるようになる。							
履修上の注意事項	・1年次必修科目「解剖学」(R5026)と内容を共有し、連続した授業として行います。詳細は第1回の授業で説明します。 ・本科目で扱った内容の一部は、1年次必修科目「生理学」(R5028)と共有します。							

成績 評価方法	前期・後期 それぞれで(暫定的な)評定点を出し、それを合算して通年の評定点を出す 期の途中で行う中間テスト:40%、 前期・後期 各期末試験:60% 課題などを課した場合、中間試験の割合に組み入れる	
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。	
教科書	書名・著者(出版社)	ISBNコード
	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 野村嶺・編 (医学書院)	978-4-260-03922-2
参考書	グレイ解剖学アトラス 原著第3版 R.L.Drake, A.W.Vogl, et al. 秋田恵一・訳 (ELSEVIER)	978-4-86034-670-6
	人体解剖カラーアトラス 原書第8版 P.H.Abrahams, J.D.Spratt, M.Loukas (南江堂)	978-4-524-22764-8
	ネッター解剖学アトラス 原書第7版 F.H.Netter, 相磯貞和、今西宣晶・訳 (南江堂)	
教員からの メッセージ	R5026 解剖学 の同項に準ずる。	
教員との 連絡方法		
実務経験の ある教員		

授業計画 (前期)	回数	講義内容	事前・事後学修
	第1回	解剖学とは、解剖学用語	解剖学基本姿勢をとってみて、各方向を示す語句がどの向きを指すか確認する(60分)
	第2回	骨格各論(1) 頭蓋、脊柱、胸郭	教科書を参照し、体幹のどの部分にどの骨(群)があるかを理解する(60分)
	第3回	骨格各論(2) 上肢の骨	鎖骨・肩甲骨・上腕骨の各部位の名称と全体の構造を理解する(60分)
	第4回	骨格各論(2) 上肢の骨	手部の骨の名称と配置を確認する(60分)
	第5回	骨格各論(3) 下肢の骨	上腕骨・橈骨・尺骨の各骨の配置、つながりと各骨の部位の名称を再確認する(60分)
	第6回	骨学実習:骨模型を使用したグループ学習	各骨の部位について、模型の形状を想起しながら理解が足りなかった箇所を復習する(60分)
	第7回	骨格各論(4) 頭蓋	頭蓋窩について形状を立体的に理解する、頭蓋を構成する個々の骨を確認する(60分)
	第8回	関節靱帯総論(1) 関節の構造と機能	形態による関節の分類について、図や身近なものを参考に運動の方向を考察する(60分)
	第9回	関節靱帯各論(1) 上肢の関節	肩鎖関節、肩関節および周囲の構造について復習する(60分)
	第10回	関節靱帯各論(1) 上肢の関節	手関節、手根骨と指節骨による関節について構造と運動方向を復習する(60分)
	第11回	関節靱帯各論(2) 下肢の関節	膝関節について構造および付属装置(靱帯・関節半月)を確認する(60分)
	第12回	関節靱帯各論(3) 頭蓋、脊柱の関節	椎骨の連結(椎間門板、靱帯)を理解する(60分)
	第13回	筋系総論	骨格筋の起始/停止について、その定義を理解し各筋に適用できるようにする(60分)
	第14回	筋系各論(1) 上肢帯の筋	上腕に筋腹を持つ各筋について、起始/停止と走行を確認し、筋の作用と結び付けて理解する(60分)
	第15回	筋系各論(2) 上肢の筋	手部の筋、および上肢の筋全般について復習する(60分)
授業計画 (後期)	第16回	筋系各論(3) 下肢帯の筋	股関節および膝関節を稼働させる各筋について、起始/停止と走行を確認し、筋の作用と結び付けて理解する(60分)
	第17回	筋系各論(4) 下肢の筋	股関節を稼働させる各筋について、起始/停止と走行を確認し、筋の作用と結び付けて理解する(240分)
	第18回	筋系各論(5) 頭頸部・浅胸部・浅背部の筋	足部の筋、および下肢の筋全般について復習する(60分)
	第19回	筋系各論(6) 胸部・腹部・背部の筋	胸部の筋、腹部の筋それぞれについて役割と外層・内層の位置関係を理解する (60分)
	第20回	内臓学 消化器系、呼吸器系、泌尿器系	各器官系の臓器の位置関係と繋がり、咽頭と喉頭の構造を理解する(60分)
	第21回	末梢神経系(2) 脊髄神経-頸神経叢	頸神経叢がどのように構成されるか、頸神経ワナの構造、横隔神経の走行と支配を復習する(60分)
	第22回	末梢神経系(3) 脊髄神経-腕神経叢	腕神経叢に由来する神経の障害について、その症状を各神経の走行・支配と比較して理解する(60分)
	第23回	末梢神経系(5) 脊髄神経-腰仙骨神経叢	腰神経叢の構成、主な神経の走行・感覚分布・筋の支配 を整理して確認する(60分)
	第24回	末梢神経系(6) 脳神経	12種類の脳神経について、番号と名称を対応させて把握する(60分)
	第25回	末梢神経系(6) 脳神経	各脳神経の走行と役割を理解する。特に複数の役割を持つものについては自分なりに整理して理解する(60分)
	第26回	中枢神経系(1) 脊髄	脊髄灰白質・白質の各部位の区分、役割を理解する(60分)
	第27回	中枢神経系(2) 脳幹	脳幹の構造、小脳との連絡を立体的に想像し整理して理解する(60分)
	第28回	中枢神経系(4) 大脳(概説)、間脳	師匠の構造と役割、大脳葉の区分について理解する(60分)
	第29回	中枢神経系(4) 大脳皮質、髄質	大脳髄質の性質と代表的な区分、および大脳基底核の形状と役割を復習する(60分)
	第30回	中枢神経系(5) 神経路	錐体路の走行を、外側/前背側視床路を区別して復習、理解する(60分)

科目コード	R5028	授業科目名	生理学					
履修区分	必修	開講期	1年	通年	授業回数	30回	単位数	4単位
担当者	牧田 亨介							
授業の概要	生理学は、生体の営む生命現象を理解することを目的として、生体の分子・細胞レベルから個体における様々な機能とその調節メカニズムを明らかにする学問である。主に、神経系の構造と機能や感覚と筋肉の整理を学び、刺激に対する反応行動、創造活動、本能行動、情動行動など、ひとが「生きてゆく」しくみを理解する。いわば、ひとの「動物性機能」について理解を深め、学修する。また、自律神経系と内分泌系によって支配される内部環境の調節―消化と吸収、体液循環、呼吸、尿生成、体液と体温の調節―など、人が「生きているしくみ」を理解する。いわばひとの「植物性機能」について理解を深め、学修する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							—
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							△
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	・神経および筋の、細胞レベルでの活動のしくみを理解し、その働く過程を説明できるようになる。 ・循環および呼吸の機構と、調節のしくみを理解する。それらに関わる心電図やスパイログラムを読み取れるようになる。 ・体液の循環と維持、呼吸、尿の生成などの個々の機能、および個体全体としてのつながりを理解する。							
履修上の注意事項	・本科目で扱った内容の一部は、1年次必修科目「解剖学」(R5026)「解剖学実習」(R5027)「生理学実習」(R5030)と共有します。							

成績 評価方法	前期・後期 それぞれで(暫定的な)評定点を出し、それを合算して通年の評定点を出す 期の途中で行う中間テスト:40%、 前期・後期 各期末試験:60% 課題などを課した場合、中間試験の割合に組み入れる ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。	
教科書	書名・著者(出版社)	ISBNコード
	シンプル生理学 改訂第8版 木邑富久子・根来英雄 著 (南江堂)	978-4-524-22655-9
参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田隆夫・長岡正範 著 (医学書院)	978-4-260-03644-3
	メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ 新版 生理学 桑名俊一・荒田晶子 著 (理工図書)	978-4-8446-0883-7
	Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学 角田亘 編 (メジカルビュー)	978-4-7583-2081-8
教員からの メッセージ		
教員との 連絡方法		
実務経験の ある教員		

	授業計画		
	回数	講義内容	事前・事後学修
授業計画 (前期)	第1回	生理学の基礎： 内部環境と恒常性	身体が細胞からできていること、恒常性を保つ機構が常に働いていることを自身の体の働きから理解する(240分)
	第2回	// ： 細胞の構造	遺伝子が保管され、複製・転写などをなされる機構を理解する(60分)細胞膜と膜タンパクについて復習し、能動輸送を理解する(180分)
	第3回	神経の基本的機能： 神経細胞の形態、静止電位と活動電位	神経細胞の各部位の名称と役割を復習する(60分)静止膜電位とナトリウム・カリウムポンプの働きの関係を理解する(180分)
	第4回	// ： 活動電位の発生と関係する法則・性質	神経細胞の脱分極・再分極の順序を復習しイオンチャネルの役割を理解する(120分)活動電位に関する法則・性質を復習する(120分)
	第5回	// ： 興奮とその伝導	活動電位が伝導していく機構を閾値・不応期と合わせて理解する(120分)神経細胞の種類による伝導の違いを復習する(120分)
	第6回	// ： 神経伝達(シナプス)と性質	シナプスで起こる現象を時系列的に整理して理解する(120分)シナプスの性質を復習する(120分)
	第7回	神経系の構成： 中枢神経系と末梢神経系、末梢神経の分類	末梢神経の分類3種類について、それぞれに分類される神経の違いを把握する(120分)交感神経・副交感神経それぞれの臓器に対する働きを調べる(120分)
	第8回	// ： 脊髄と脊髄神経、脳幹と脳神経	脊髄の構造を復習する(60分)脊髄神経と脊髄のつながりを復習する(60分)脳幹・小脳・大脳の構造について教科書を精読し把握する(120分)
	第9回	自律神経と内臓機能	交感神経・副交感神経の機能の違いを確認する(60分)走行の違い、伝達における特徴を理解する(180分)
	第10回	筋肉の基本的機能： 骨格筋の構造	筋節の構造について構成するタンパク質の特徴を含めて復習する(120分)骨格筋と平滑筋・心筋の違いを調べる(120分)
	第11回	// ： 骨格筋の収縮の仕組み	図説を精読したり自分で図を描いたりして滑り込み運動がおこる仕組みを理解する、その時の構成タンパク質の状態を把握する(240分)
	第12回	// ： 負荷と筋収縮、張力、平滑筋・心筋	等尺性/等張性収縮の差、単収縮・加重・強縮の関係、筋長と収縮力の関係を復習する(180分)骨格筋と平滑筋・心筋の違いをまとめる(60分)
	第13回	体性神経系と運動機能： 大脳新皮質の運動機能(錐体路)	大脳皮質運動野の部位、周辺との関連性を理解する(60分)錐体路に含まれる各構造を調べ錐体路のつながりを理解する(180分)
	第14回	// ： 大脳新皮質の運動機能(錐体路)	外側皮質脊髄路と前皮質脊髄路の共通部分、異なる部分を比較して理解する(180分)錐体路・錐体外路が障害された時の影響を調べる(60分)
	第15回	// ： 脊髄の運動機能(脊髄反射)	伸張反射・屈曲反射について、反射弓・刺激・反応・伝達する神経などを自分で整理して理解する(180分)反射の協調を復習して理解を深める(60分)
授業計画 (後期)	第16回	感覚の生理： 感覚の一般的性質	自身を振り返って感覚の種類を把握し、分類を理解する(120分)受容器電位と神経の活動電位との関係を復習する(120分)
	第17回	// ： 体性感覚	体性感覚/皮膚感覚の分類を、刺激の種類・受容器・伝達する神経などで分類して理解する(180分)皮膚の構造を理解する(60分)
	第18回	// ： 体性感覚の伝導路	感覚伝導路に関わる部位について調べる(60分)2種類の伝導路の相違点・相似点を理解する(180分)
	第19回	// ： 視覚とその伝導路	視覚器の構造を把握しておく(60分)視細胞－視神経－脳までの経路を理解する(180分)
	第20回	// ： 聴覚、前庭感覚とその伝導路	外耳・中耳・内耳の構造を把握しておく(60分)音刺激、体の動きが感知される機構を理解する(180分)
	第21回	循環系の機能： 概論、心臓の構造と循環	心臓の構造、部位の名称を復習(120分) 心臓とその近辺での循環について理解(120分)
	第22回	// ： 心筋の性質、心電図	骨格筋と心筋(・平滑筋)の違いを調べる(60分) 心電図と心臓各部の収縮との対応を理解(180分)
	第23回	// ： 心臓のポンプ機能、心機能の調節	心周期について、期の順序と血液の流れ、心室内圧と弁の開閉 を確認する(120分) 心拍数、一回拍出量を変化させる各要素をまとめ直し理解する(120分)
	第24回	// ： 血管系とリンパ管系	各血管系の特徴を確認する(60分) 血圧と静脈浸透圧の関係を理解し、血圧の変化位による毛細血管を介した物質移動を復習する(120分)リンパ管の走行を再確認(60分)
	第25回	// ： 血圧とその調節、局所循環	血圧の概念と心周期との関係を理解する(60分)人体が血圧を感知して変動(上昇・下降)させる一連の流れを把握する(60分) 循環の生理全般を復習する(120分)
	第26回	呼吸の生理： 換気の仕組み、スパイログラム	呼吸に関わる筋と肋骨の運動を復習し、換気のプロセスを理解する(60分) 呼吸機能検査の方法を調べ、各呼吸分面の意味を理解する(120分)残気量、1秒率の定義を理解する(60分)
	第27回	// ： ガス交換と分圧、酸素の運搬	ガス交換(酸素と二酸化炭素それぞれの移動)と血液のPO ₂ 、PCO ₂ の変化を理解する(120分) ヘモグロビンと酸素の結合/解離の性質を理解しHb酸素解離曲線の解釈を確かめる(120分)
	第28回	// ： 呼吸を調節する仕組み	人体が酸素・二酸化炭素分圧を感知して呼吸を変化させる一連の流れを把握する(60分) 呼吸の整理全般を復習する(180分)
	第29回	尿の生成と排泄： 泌尿器の構造、糸球体ろ過	腎臓の構造を予習しておく(60分) 血液から原尿が作られる仕組みを腎小体の構造と合わせて理解する(180分)
	第30回	// ： 再吸収と分泌、尿産生の調節	再吸収の概念と、尿細管の部位ごとの再吸収を理解する(120分) ホルモンによる再吸収の調節の仕組みと、血漿量の変動(調節)に関連付けて理解する(120分)

科目コード	R5029	授業科目名	生理学実習					
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	23回	単位数	1単位
担当者	牧田 亨介・加藤 みわ子・田邊 淳平・山川 敦史・石倉 英樹・中川 敬汰							
授業の概要	講義で学習する生体の機能に関して、自身で実践することで深く理解する。動物を使った神経・筋の機能の観察測定や、人体の生理機能(筋肉、運動、循環、呼吸、感覚など)の測定解析を互いに被験者・験者になって行う経験から、生理学に関する内容をよく理解し、また実験器具、測定装置およびデータの取り扱いと解析方法を学ぶ。 ※実施する実習の内容については調整中であり、一部変更する場合がある							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ ○ △
到達目標	神経・筋の基本的な機能を理解し、実習で測定した数値が何にあたるか、どのように導出されたものなのかを説明できる。また外部からの導出刺激が変化したときに測定値がなぜ変化するのかを説明できる。 血圧、呼吸機能、心臓の拍動(心電図)を理解し、その測定方法と測定値の意味を説明できる。運動負荷試験と測定値の意味、感覚に関する主な生理機能、筋電図の理論と筋の運動との関係についてそれぞれ理解し説明できるようになる。							
履修上の注意事項	・実習設備と教室の関係上、前半(実習①～③)は隔週で、後半(実習④～⑨)は週ごとのローテーションで行う。 ・実習は、指定する実習班に分かれて行う。実習予定などについて、相互に確認できる様にしておくこと。 ・各実習の詳細および実習にあたっての諸注意は第1・2回と第9回のガイダンスで連絡する。必ず出席すること。							
授業計画	回数	講義内容						
	第1回	実習ガイダンス(進行についての諸注意)、前半実習について説明(概要・目的など)						
	第2回	〃、動物を使用した実習に際して気を付けるべきこと						
	第3回	① ウシガエル坐骨神経を用いた神経活動電位計測実習(全員)						
	第4回	〃						
	第5回	② ウシガエル腓腹筋を用いた筋収縮計測実習(1)(全員)						
	第6回	〃						
	第7回	③ ウシガエル腓腹筋を用いた筋収縮計測実習(2)(全員)						
	第8回	〃						
	第9回	後半実習について説明(概要・目的など)						
	第10回	④ 心電図実習 心電図計による測定と波形の読み取り、電気軸の作成(加藤)						
	第11回	〃						
	第12回	⑤ 呼吸機能検査実習 パルスオキシメーターによる血中酸素濃度の読み取り、						
	第13回	運動時における変化の観察(石倉)						
	第14回	⑥ 血圧測定実習 聴診法による血圧測定の実践、						
	第15回	体位変換が血圧に与える影響の観察(山川)						
	第16回	⑦ 筋電図実習 上腕二頭筋の筋収縮(等張性収縮、等尺性収縮)に伴う						
	第17回	活動電位の測定と解釈(牧田)						
	第18回	⑧ 運動負荷実習 自転車エルゴメーターを用い、最大酸素摂取量を測定(中川)						
	第19回	〃						
	第20回	⑨ 感覚検査実習 皮膚感覚のうち、2点弁別能 および触覚閾値の計測、						
	第21回	感覚鈍麻の模擬的再現と触覚閾値の変化(田邊)						
	第22回	実習全体まとめ						
	第23回	動物慰霊祭						
	第24回							
	第25回							
	第26回							
	第27回							
	第28回							
	第29回							
第30回								
成績評価方法	実習項目①～⑨の各回について、実習の結果と考察課題からなるワークシートを提出する。 提出されたワークシートの総合により評価を行う。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	シンプル生理学 改訂第8版 貴邑富久子、根来英雄(南江堂)						9784524226559	
参考書	生理学実習NAVI 第2版 大橋敦子・監修(医歯薬出版)						978-4-263-24072-4	
	Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学 角田亘 編(メジカルビュー)						978-4-7583-2081-8	
教員からのメッセージ	実習ガイダンスを行う回に実習マニュアルを配付し、内容の説明をするので、各回の実習内容を事前に調べ、実習に臨むこと。 教科書はR5027生理学と共通だが、WSの考察を書く際に参照できるよう持参する事を推奨する。							
教員との連絡方法								
実務経験のある教員	担当教員のうち理学療法士・作業療法士としての臨床経験を持つ教員が、その経験に基づき内容を解説しながら実習を行う							

科目コード	R5030	授業科目名	人間発達学					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	平尾 文							
授業の概要	人間(赤ちゃん)の発達について、特に胎生期から生後1年間の発達について学習・体験し、理解に繋がります。 実技を通して、特にどの時期の何が重要かを体験します。 人間発達(赤ちゃん)に対する理解が深まると、赤ちゃんのすごさ・面白さがわかります。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							◎
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	・人間発達を学ぶ意義を3つ列挙できるようになる ・コミュニケーションとは何かを説明できるようになる ・人間の発達に必要な要素を3つ列挙できるようになる							
履修上の注意事項	・課題の提出期限を守ってください ・配布資料は大事に保管してください ・授業態度が不適切な場合は、厳重注意をすることがあります							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	なぜ人間発達を学ぶ？ コミュニケーションとは？					コミュニケーションとは何かを考えておく(60分)。	
	第2回	胎生期・新生児期について(動画を用いての学習)					動画内の胎内の赤ちゃんの笑顔や動きについてイメージをする(60分)。	
	第3回	姿勢反射・反応について					姿勢反射・反応の統合の時期について考える(60分)。	
	第4回	運動発達について①(0か月～3か月動画を用いての学習)					0～3か月の赤ちゃんの動きについて復習する(60分)。	
	第5回	運動発達について②(4か月～6か月動画を用いての学習)					4～6か月の赤ちゃんの動きについて復習する(60分)。	
	第6回	運動発達について③(7か月～9か月動画を用いての学習)					7～9か月の赤ちゃんの動きについて復習する(60分)。	
	第7回	運動発達について④(10か月～12か月動画を用いての学習)					10～12か月の赤ちゃんの動きについて、復習する(60分)。	
	第8回	運動発達について⑤(12か月～14か月動画を用いての学習)					12～14か月の赤ちゃんの動きについて復習する(60分)。	
	第9回	手の発達について					手の発達について、図を観ながら真似をしてみる(60分)。	
	第10回	認知・感覚について					認知の発達について、日常生活の中でどのようなことがあるのか具体例を3つ考える(60分)。	
	第11回	遊びについて					屋外での遊び体験が、具体的にどのような能力に繋がるのかを考える(60分)。	
	第12回	摂食について(摂食実技:食物の固さによる身体の変化を体験する)					自分の日常の食事を考え、どのような固さのものが多く考える(60分)。	
	第13回	言葉の発達について					子どもの言葉の発達について、どのようなことが影響するのかを復習する(60分)。	
	第14回	発達検査について					発達検査の正式名称および対象年齢を理解する(60分)。	
	第15回	第1回～14回までのダイジェストのまとめ					この授業を振り返り、赤ちゃんの発達に何が重要であるかを考える(60分)。	
成績評価方法	期末試験(60%)・提出物(40%)にて総合評価します。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	イラストでわかる人間発達学・上杉雅之(医歯薬出版株式会社)					978-4-263-21945-4		
参考書								
教員からのメッセージ								
教員との連絡方法	パソコンのアドレスまでメールを送ってください。aya.72710@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	小児専門の作業療法士として、15年間の病院での勤務経験を持つ。その間に担当した子どもさん約600人。こちらの経験を基に人間(赤ちゃん)の発達について、実技を交えて楽しみながら学ぶ授業です。							

科目コード	R5032	授業科目名	病理学					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	達家 雅明							
授業の概要	ヒトの疾病の原因はさまざまである。本講義では、その原因について色々な要因をヒトの体の構造と機能との関係において学修する。感染症はヒト以外の生物やウイルス、プリオンが体内で増殖する現象であり、それらの感染性生物や感染源について学ぶ。また、ヒトに備わっている防御能(免疫)についても理解し、自己免疫疾患についても学修する。更に、遺伝子異常、先天性疾患や奇形、細胞障害、炎症、腫瘍、循環障害、代謝異常を中心に病因と病態について学修する。また、老化現象や死について、そして、放射線被曝による急性障害、慢性障害についても学修する。特に、リハビリテーション学科での習得が必要な疾病の病理病態については、集中的に学修を行う。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ ○ △
到達目標	本講義の達成目標は ・ヒトは細胞からなり、その異常が疾病として現れることを理解していること ・また、医学は科学のひとつの分野であり、ヒトの疾病を迷信／古いや差別や偏見等によって判断し思い込んではいけないことも理解していること ・その結果として、医学用語(特に病理学用語)の概念を理解し適切に使うことが出来るようになる ・更に、病気とその基盤となる組織・細胞・分子レベルでの現象を結びつけて考えることが出来るようになる ・加えて、感染症を引き起こす代表的な病原微生物の特徴や医療機関での院内感染等の問題に対する対処法を説明出来るようになる ・また、原爆被曝による障害についても放射線障害という観点から説明出来るようになる ・リハビリテーション学科での習得が必要な疾病の病理病態については特に理解を進める などであり、この目的の達成度について、毎回のレポートの提出を求めると同時に、定期試験でも、この達成度が評価出来るような記述式の出題をおこなう。							
履修上の注意事項	出席は学生証を忘れた場合には認めない。授業中の私語は禁止。携帯電話の使用は禁止。課題に関するレポートは必ず全て自宅学習して提出すること。未提出の課題がある場合には、定期試験は受験出来ない。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	病理学の概要、病因論 ・病理学の概要 ・病因とは ・細胞とは					病気とは何か？我々の体を作る細胞とは何か？などについて事前に調べる。(60分)	
	第2回	組織の構築と病変 ・病変の概要 ・退行性とは ・組織とは					病変とは何か？我々の体を作る組織とは何か？などについて事前に調べる。(60分)	
	第3回	代謝異常(1) ・代謝の概要 ・酵素や補酵素とは ・欠乏症とは					代謝とは何か？我々の体にある酵素や補酵素、そしてそれらの欠乏症について調べる。(60分)	
	第4回	代謝異常(2) ・内分泌の概要 ・恒常性とは ・代謝調節とは					内分泌とは何か？我々の体の恒常性と代謝調節について調べる。(60分)	
	第5回	循環傷害(1) ・循環系の概要 ・血液とは ・動脈硬化とは					循環系とは何か？我々の体の血液と動脈硬化について調べる。(60分)	
	第6回	先天異常、奇形 ・遺伝の概要 ・遺伝病とは ・染色体異常症とは ・奇形とは					遺伝とは何か？ヒトの遺伝病と染色体異常症と奇形について調べる。(60分)	
	第7回	創傷治癒 ・創傷治癒の概要 ・血液凝固とは ・治癒過程とは					我々の体の血液凝固と創傷治癒について調べる。(60分)	
	第8回	循環傷害(2) ・循環器異常の概要 ・血管とは ・門脈とは					我々の体の血管と門脈について調べる。(60分)	
	第9回	免疫(1) ・免疫の概要 ・白血球とは ・抗原と抗体とは					我々の体の免疫システムについて調べる。(60分)	
	第10回	免疫(2) ・アレルギーの概要 ・自己免疫疾患とは ・免疫不全症とは					我々の体のアレルギー反応について調べる。(60分)	
	第11回	炎症・感染症 ・炎症と感染症の概要 ・細菌感染とは ・ウイルス感染とは ・プリオン病とは					我々の体の炎症反応と感染症について調べる。(60分)	
	第12回	放射線障害 ・放射線障害の概要 ・発がんとは ・放射線障害とは					我々の体の放射線障害と発がん現象について調べる。(60分)	
	第13回	腫瘍(1) ・ヒトがんの概要 ・腫瘍とは ・白血病とは					ヒトのがんについて調べる。(60分)	
	第14回	腫瘍(2) ・脳腫瘍の概要 ・グリアとは ・脳腫瘍の分類とは					ヒトの脳腫瘍について調べる。(60分)	
	第15回	老化と死 ・老化と死の概要 ・認知症とは ・高齢者とは ・老化とは ・死とは					ヒトの老化と死について調べる。(60分)	
成績評価方法	課題の提出が全てあることが前提である。その上で、期末試験60%以上が合格となる。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野病理学(第5版) 奈良勲(医学書院)						978-4-2600-4986-3	
参考書	人体の構造と機能(1) 林正健二(メディカ出版)						978-4-8404-5374-5	
	カラーで学べる病理学(第5版) 渡辺照男(医学書院)						978-4-8617-4075-6	
	はじめの一步の病態・疾患学 林洋(羊土社)						978-4-7581-2085-2	
教員からのメッセージ	参考図書の「人体の構造と機能(1)」はなるべく購入をお勧めします。授業では折に触れて人体解剖学の復習をしつつ病理学の授業を進めます。必ず、授業中に板書したことや授業内容は自分で授業ノートに取り、必ず、その日に説明した専門用語はその日の内に頭を整理して理解し、覚えるように心がけましょう。また、必ず、毎週出される課題プリントは自分で解き、授業内容の復習に心がけましょう。わからない場合や疑問が生じた場合には教科書にあり、あるいは参考書その他の専門書などにあたって、まずは自分で調べてみましょう。							
教員との連絡方法	メールが一番確実です。tatsuka@pu-hiroshima.ac.jp							
実務経験のある教員	臨床医等(臨床系の国家資格(医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士など)を有し、臨床系の勤務経験を有する者)							

科目コード	R5033	授業科目名	神経内科学総論Ⅰ					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	菊本 修							
授業の概要	神経疾患の原因を理解する。 神経疾患の症状を理解し、担当患者の症状を正確に評価する。 神経疾患患者ごとの治療目標を理解する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							—
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							—
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	各々の神経疾患の最も合理的な理学療法・作業療法を選ぶ基礎能力が獲得されている。							
履修上の注意事項	他人に迷惑をかけないようにしましょう。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	中枢神経系の解剖と機能					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第2回	神経学的診断と評価					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第3回	神経学的検査法					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第4回	意識障害、脳死、植物状態					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第5回	頭痛、めまい、失神					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第6回	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第7回	錐体外路徴候、不随意運動					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第8回	運動失調					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第9回	感覚障害					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第10回	失語、失認、失行					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第11回	記憶障害、注意障害、遂行機能障害					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第12回	構音障害、嚥下障害					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第13回	脳神経外科領域の疾患					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第14回	脳血管障害①					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第15回	脳血管障害②						
成績評価方法	期末試験 100%							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	神経内科学第5版 奈良塾ほか(医学書院)						9784260038171	
参考書								
教員からのメッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。							
教員との連絡方法	大学に相談していただければ、私に連絡できるようにしてあります。							
実務経験のある教員								

科目コード	R5034	授業科目名	神経内科学総論Ⅱ					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	菊本 修							
授業の概要	神経疾患の原因を理解する。 神経疾患の症状を理解し、担当患者の症状を精確に評価する。 神経疾患患者ごとの治療目標を理解する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							—
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							—
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	各々の神経疾患の最も合理的な理学療法・作業療法を選ぶ基礎能力が獲得されている。							
履修上の注意事項	他人に迷惑をかけないようにしましょう。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	脳血管障害③					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第2回	認知症①					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第3回	認知症②					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第4回	脳腫瘍					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第5回	外傷性脳損傷					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第6回	脊髄疾患					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第7回	脱随疾患					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第8回	変性疾患					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第9回	末梢神経障害					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第10回	てんかん					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第11回	筋疾患					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第12回	感染性疾患					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第13回	中毒性、栄養欠乏による神経疾患					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第14回	小児神経疾患					次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。(60分)	
	第15回	神経疾患に多い合併症						
成績評価方法	期末試験 100%							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	神経内科学第5版 奈良勲ほか(医学書院)						9784260038171	
参考書								
教員からのメッセージ	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。							
教員との連絡方法	大学に相談していただければ、私に連絡できるようにしてあります。							
実務経験のある教員								

科目コード	R5035	授業科目名	一般臨床医学Ⅰ					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	土井 謙司							
授業の概要	内科学を中心とした科目を修得する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							—
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	主要な内科系疾患の症候学、診断学、治療学について理解し、リハビリテーションの実践に必要な知識と思考方法を学習する。							
履修上の注意事項	原則は教科書、スライド・プリントを使用した講義形式とする。 適時、小テストを実施する。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	内科学 総論						
	第2回	内科 症候学						
	第3回	呼吸器 総論						
	第4回	呼吸器 各論1						
	第5回	呼吸器 各論2						
	第6回	呼吸器 各論3						
	第7回	呼吸器 各論4						
	第8回	呼吸器 各論5						
	第9回	循環器 総論						
	第10回	循環器 各論1						
	第11回	循環器 各論2						
	第12回	循環器 各論3						
	第13回	循環器 各論4						
	第14回	循環器 各論5						
	第15回	呼吸器 循環器 まとめ						
成績評価方法	期末試験 100%							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	なるほどなっとく!内科学(改訂2版) 浅野 嘉延 他(南山堂)					9784525207229		
参考書	標準理学療法学作業療法学「内科学」 前田 眞治 他(医学書院)					9784260017077		
教員からのメッセージ	実地診療の把握および国家試験対策を基本に授業を進めていきます。疑問点を残さない様にして、しっかり勉強してください。							
教員との連絡方法								
実務経験のある教員								

科目コード	R5036	授業科目名	一般臨床医学Ⅱ					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	土井 謙司							
授業の概要	内科学を中心とした科目を修得する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							—
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	主要な内科系疾患の症候学、診断学、治療学について理解し、リハビリテーションの実践に必要な知識と思考方法を学習する。							
履修上の注意事項	原則は教科書、スライド・プリントを使用した講義形式とする。 適時、小テストを実施する。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	消化器 総論						
	第2回	消化器 各論						
	第3回	肝胆膵疾患 総論						
	第4回	肝胆膵疾患 各論						
	第5回	代謝疾患 総論						
	第6回	代謝疾患 各論						
	第7回	内分泌疾患 総論						
	第8回	内分泌疾患 各論						
	第9回	腎・泌尿器 総論						
	第10回	腎・泌尿器 各論						
	第11回	血液疾患 総論						
	第12回	血液疾患 各論						
	第13回	アレルギー・膠原病 総論						
	第14回	アレルギー・膠原病 各論						
	第15回	感染症疾患 総論 各論						
成績 評価方法	期末試験 100%							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	なるほどなっとく!内科学(改訂2版) 浅野 嘉延 他(南山堂)					9784525207229		
参考書	標準理学療法学作業療法学「内科学」 前田 眞治 他(医学書院)					9784260017077		
教員からの メッセージ	実地診療の把握および国家試験対策を基本に授業を進めていきます。疑問点を残さない様にして、しっかり勉強してください。							
教員との 連絡方法								
実務経験の ある教員								

科目コード	R5037	授業科目名	整形外科学総論Ⅰ					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	松本 治之							
授業の概要	「整形外科学」は、運動器(体幹・四肢)の疾患を扱う学問です。当授業では、その基礎を学び、多様な病態を理解して頂きます。また臨床整形外科医の立場から、各種疾患の考え方、取り組み方について解説します。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	国家試験に対応できる学力を培うとともに、理学療法および作業療法を実践するのに必要な基本知識を身につける。							
履修上の注意事項	常に好奇心を持ち疑問点があれば自分で調べる習慣をつけましょう。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	整形外科の基礎科学1						
	第2回	整形外科の基礎科学2						
	第3回	整形外科診断総論1						
	第4回	整形外科診断総論2						
	第5回	整形外科治療総論1						
	第6回	整形外科治療総論2						
	第7回	軟部組織・骨・関節の感染症						
	第8回	関節リウマチとその類縁疾患1						
	第9回	関節リウマチとその類縁疾患2						
	第10回	慢性関節疾患(退行性、代謝性)						
	第11回	四肢循環障害と阻血性壊死疾患						
	第12回	先天性骨系統疾患・先天性異常症候群						
	第13回	代謝性骨疾患						
	第14回	骨・軟部腫瘍						
	第15回	神経・筋疾患						
成績評価方法	期末試験 80%、小テスト20%							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	標準整形外科学 第14版 中村 利孝 他(医学書院)					9784260038805		
参考書								
教員からのメッセージ	知識は最高の薬。 将来みなさんが就く職は、人に役立つ職業です。目的意識をしっかりと持って頑張ってください。 In bocca al lupo !							
教員との連絡方法								
実務経験のある教員								

科目コード	R5038	授業科目名	整形外科学総論Ⅱ					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	松本 治之							
授業の概要	「整形外科学」は、運動器(体幹・四肢)の疾患を扱う学問です。当授業では、その基礎を学び、多様な病態を理解して頂きます。また臨床整形外科医の立場から、各種疾患の考え方、取り組み方について解説します。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	国家試験に対応できる学力を培うとともに、理学療法および作業療法を実践するのに必要な基本知識を身につける。							
履修上の注意事項								
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	肩関節						
	第2回	肘関節						
	第3回	手関節と手						
	第4回	頸椎・胸郭						
	第5回	胸椎、腰椎1						
	第6回	胸椎、腰椎2						
	第7回	股関節1						
	第8回	股関節2						
	第9回	膝関節						
	第10回	足関節と足						
	第11回	外傷総論・軟部組織損傷						
	第12回	骨折・脱臼						
	第13回	脊椎・脊髄損傷						
	第14回	末梢神経損傷						
	第15回	スポーツ損傷						
成績評価方法	期末試験 80%、小テスト20%							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	標準整形外科学 第14版 中村 利孝 他(医学書院)					9784260038805		
参考書								
教員からのメッセージ	知識は最高の薬。 将来みなさんが就く職は、人に役立つ職業です。目的意識をしっかりと持って頑張ってください。 In bocca al lupo !							
教員との連絡方法								
実務経験のある教員								

科目コード	R5039	授業科目名	精神医学総論Ⅰ					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	秋田 博孝							
授業の概要	精神医学とは何かを理解し、様々な精神疾患の特徴や治療法について理解する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							○
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	精神機能とその異常、精神発達、精神医学的診察と診断、精神治療学について理解する。 統合失調症、気分障害、ストレス関連疾患、認知症性疾患など各種精神疾患の概念、病因、症状、治療について理解する。							
履修上の注意事項	私語、携帯電話の使用を禁止する。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	精神医学とは					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第2回	精神障害の成因と分類					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第3回	精神機能の障害と精神症状(1)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第4回	精神機能の障害と精神症状(2)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第5回	精神機能の障害と精神症状(3)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第6回	精神障害の診断と評価					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第7回	脳器質性精神障害(1)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第8回	脳器質性精神障害(2)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第9回	症状性精神障害					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第10回	精神作用物質による精神及び行動の障害(1)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第11回	精神作用物質による精神及び行動の障害(2)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第12回	てんかん					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第13回	統合失調症(1)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第14回	統合失調症(2)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第15回	統合失調症(3)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
成績評価方法	期末試験 100%							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	標準理理学療法学・作業療法学専門基礎分野 精神医学(第4版 増補版) 編集:上野 武治(医学書院)						9784260044769	
参考書								
教員からのメッセージ	授業を真面目に聴講することが最も効率的勉強法です。授業中重要点を指摘しますので重点的に記憶しておきましょう。							
教員との連絡方法	質問があれば用紙に書いて渡してください。次回の授業で回答します。							
実務経験のある教員								

科目コード	R5040	授業科目名	精神医学総論Ⅱ					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	秋田 博孝							
授業の概要	精神医学とは何かを理解し、様々な精神疾患の特徴や治療法について理解する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							○
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	精神機能とその異常、精神発達、精神医学的診察と診断、精神治療学について理解する。 統合失調症、気分障害、ストレス関連疾患、認知症性疾患など各種精神疾患の概念、病因、症状、治療について理解する。							
履修上の注意事項	私語、携帯電話の使用を禁止する。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	気分障害(1)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第2回	気分障害(2)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第3回	神経症性障害(1)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第4回	神経症性障害(2)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第5回	生理的障害及び身体的要因に関連した障害					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第6回	成人のパーソナリティ・行動・性の障害					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第7回	精神遅滞					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第8回	心理的発達の障害					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第9回	コンサルテーション・リエゾン精神医学					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第10回	心身医学					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第11回	ライフサイクルにおける精神医学					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第12回	精神障害の治療とリハビリテーション					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第13回	精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション(1)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第14回	精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション(2)					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
	第15回	社会・文化とメンタルヘルス					事前学修 教科書の精読45分 事後学修 授業での重要事項の再確認及び小テスト45分	
成績評価方法	期末試験 100%							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	標準理理学療法学・作業療法学専門基礎分野 精神医学(第4版 増補版) 編集:上野 武治(医学書院)						9784260044769	
参考書								
教員からのメッセージ	授業を真面目に聴講することが最も効率的勉強法です。授業中重要点を指摘しますので重点的に記憶しておきましょう。							
教員との連絡方法	質問があれば用紙に書いて渡してください。次回の授業で回答します。							
実務経験のある教員								

科目コード	R5041	授業科目名	運動学					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	2単位
担当者	山川 敦史・谷岡 龍一							
授業の概要	運動学は身体運動を考究する学問であり、その知識は運動障害をもつ患者の評価・治療を担う理学療法士・作業療法士にとって必要不可欠なものである。本講義では、関節の構造と運動特性および関節運動について学習する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							△
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							○
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							◎
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							△
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	① 筋骨格系の構造及び機能と関節運動との関係を説明できる。 ② 力学的未定理に基づく運動の記述を説明できる。 ③ 正常歩行時の各相の名称とその特徴を説明できる。							
履修上の注意事項	必ず1年次の解剖学、生理学を復習して授業に臨んで下さい。骨、関節、靱帯、骨格筋の解剖生理をしっかりと身につけておかないと運動学は理解することが難しいです。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション / 【1】生体力学の基礎(谷岡)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第2回	【2】生体力学の基礎(谷岡)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第3回	【1】四肢と体幹の運動(上肢)(山川)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第4回	【2】四肢と体幹の運動(上肢)(山川)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第5回	【1】四肢と体幹の運動(体幹・顔面)(山川)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第6回	【2】四肢と体幹の運動(体幹・顔面)(山川)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第7回	【1】四肢と体幹の運動(下肢)(谷岡)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第8回	【2】四肢と体幹の運動(下肢)(谷岡)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第9回	【1】姿勢(谷岡)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第10回	【2】姿勢(谷岡)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第11回	【1】歩行と走行(谷岡)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第12回	【2】歩行と走行(谷岡)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第13回	【3】歩行と走行(谷岡)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第14回	【4】歩行と走行(谷岡)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
	第15回	運動学習(山川)					事前:教科書の予習, 事後:授業の復習	
成績評価方法	小テスト20%、期末試験80%							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	基礎運動学 中村隆一 ほか(医歯薬出版)					978-4-263-21153-3		
参考書								
教員からのメッセージ	理学・作業療法を学ぶ上で運動学は避けて通れません。とにかく繰り返し勉強し理解して下さい。							
教員との連絡方法	メールアドレス:山川 敦史 lily-drg@hcu.ac.jp, 谷岡 龍一 tanioka@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	山川 敦史：作業療法士として病院(入院・外来)および在宅(訪問)の臨床経験をふまえ、知見を交えた講義を行います。 谷岡 龍一：回復期の診療経験(脳卒中、整形外科、呼吸器科等)、維持期の診療経験(廃用症候群等)、訪問リハビリの診療経験(特定疾患、慢性疾患等)をふまえ、知見を交えた講義を行います。							

科目コード	R5042	授業科目名	運動学実習					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	伊藤 祥史・谷岡 龍一・猪村 剛史							
授業の概要	解剖学、生理学、運動学で学んだ基礎知識をもとに、身体運動のメカニズムを理解する。 身体運動の分析での観察力の重要性を修得するとともに、四肢並びに体幹の関節運動について理解する。 基本的知識の解剖(骨学・筋学・靱帯学)を復習する。理学療法の治療に必要な運動を理解する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							△
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	運動学や身体触診学で学んだことを統合し、骨模型や実習を通してさらに深いところを学んでゆく。また実習課題などは、チームワークを組んで課題を遂行する。							
履修上の注意事項	実習着を着用してください(ジャージ上下、ボロシャツ)。配布資料について、予備の配布は行いませんので、紛失等した場合は、各自の責任において、他の学生からコピー等をしてもらってください。授業中の私語ならびに携帯電話(スマートフォン)使用は禁止します。クラスを3分割して授業を実施しますので、予定表にしたがって受講してください。 ※但し1教員の授業3分の1を超えて休むと期末試験の受験を認めない為、注意すること。理学療法士にとってとても大事な教科です。復習は必ずしてください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	股関節(骨)(谷岡)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第2回	股関節(筋と関節)(谷岡)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第3回	膝関節(骨)(谷岡)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第4回	膝関節(筋と関節)(谷岡)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第5回	足関節(谷岡)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第6回	肩甲複合体1(伊藤)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第7回	肩甲複合体2(伊藤)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第8回	肘と前腕1(伊藤)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第9回	肘と前腕2(伊藤)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第10回	手関節(伊藤)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第11回	体軸骨格(骨)(猪村)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第12回	体軸骨格(筋)(猪村)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第13回	体軸骨格(筋と関節)(猪村)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第14回	歩行の身体運動学(猪村)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第15回	歩行の身体運動学(猪村)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
成績評価方法	各担当教員別期末試験、小テスト・レポート。							
	ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	エッセンシャル・キネシオロジー Paul Jackson Mansfield ほか(江南堂)						978-4-524-22653-5	
	基礎運動学 中村 隆一(医歯薬出版)						978-4-263-21153-3	
参考書	運動療法のための 機能解剖学的触診技術・林 典雄(MEDICAL VIEW)							
教員からのメッセージ	基礎的な解剖は授業前に理解しておいてください。理学療法士にとって運動学はとても重要な学問です。授業後の復習をおこたらず、しっかり理解してください。また習ったところは、次回の講義前にならず小テストを実施します。ヒューマン・アナトミー・アトラスなど解剖系のアプリ等々を利用しながら授業を行うとともに習熟度が深まりますのでお勧めします。							
教員との連絡方法	オフィシアワーを利用してください。							
実務経験のある教員	伊藤:脳神経外科、整形外科疾患、小児疾患等々、急性期から慢性期にかけて理学療法に必要な運動学基礎知識と臨床応用について指導する。 猪村:脳神経外科領域における急性期・回復期・生活期理学療法の実務経験をもとに運動学の基礎知識と神経理学療法との関連について教育する。 谷岡:回復期、維持期、訪問リハビリの診療経験をふまえ、知見を交えた講義を行う。							

科目コード	R5043	授業科目名	運動学実習					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	16回	単位数	1単位
担当者	山川 敦史・岩本 優士							
授業の概要	作業療法の現場で、介入の際の対象となることの多い筋肉を中心に、解剖学的特徴や機能についての講義と、触診技術についての実技を行います。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							○
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							—
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							◎
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							—
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	・主に筋組織を触察し上肢・下肢・体幹の正常な機能解剖(解剖・運動学)を理解し、実演することが出来る。 ・応用動作分析に至るために必要な基本的動作の運動学的動作分析ができる。							
履修上の注意事項	大学指定のジャージが実習着を着用のこと。個人のジャージ等も可ですが、通学の服装とは必ず区別してください。頭髪は、実技中に顔を隠さないよう調整し、爪は衛生的に保つこと。触診時は指先を使いますので、爪が被検者を傷つけないことが大切です。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション、上肢の触診(1):三角筋(前部・中部・後部線維)の触診					授業中に読み上げた内容および触診技術の復習	
	第2回	上肢の触診(2):小テスト、大胸筋(鎖骨部・胸肋部・腹部線維)の触診					授業中に読み上げた内容および触診技術の復習☑	
	第3回	上肢の触診(3):小テスト、棘上筋、棘下筋の触診					授業中に読み上げた内容および触診技術の復習	
	第4回	上肢の触診(4):小テスト、小円筋、広背筋の触診					授業中に読み上げた内容および触診技術の復習	
	第5回	上肢の触診(5):小テスト、僧帽筋(上部・中部・下部線維)の触診					授業中に読み上げた内容および触診技術の復習	
	第6回	上肢の触診(6):小テスト、上腕二頭筋、腕橈骨筋の触診					授業中に読み上げた内容および触診技術の復習	
	第7回	上肢の触診(7):小テスト、上腕三頭筋、円回内筋、回外筋、長掌筋の触診					授業中に読み上げた内容および触診技術の復習	
	第8回	上肢の触診(8):小テスト、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長・短橈側手根伸筋の触診					授業中に読み上げた内容および触診技術の復習	
	第9回	上肢の触診(9):小テスト、尺側手根伸筋、総指伸筋、浅指屈筋の触診					授業中に読み上げた内容および触診技術の復習	
	第10回	上肢の触診(10):小テスト、深指屈筋の触診 下肢の触診(1):縫工筋、大腿筋膜張筋、中殿筋の触診					授業中に読み上げた内容および触診技術の復習	
	第11回	下肢の触診(2):小テスト、大腿直筋、半腱様筋の触診					授業中に読み上げた内容および触診技術の復習	
	第12回	下肢の触診(3):小テスト、大腿二頭筋、薄筋、前脛骨筋の触診					授業中に読み上げた内容および触診技術の復習	
	第13回	下肢の触診(4):小テスト、腓腹筋、ヒラメ筋の触診					授業中に読み上げた内容および触診技術の復習	
	第14回	歩行分析:歩行周期と特徴に関する講義およびグループワークによる観察演習					自分や家族など身近な人物の歩行観察	
	第15回	動作分析:分析の枠組みを講義形式で伝達。基本動作をグループワークで観察演習					自分や家族など身近な人物の動作を観察	
成績評価方法	実技試験(筋の触診):40% 筆記試験(上下肢の筋、歩行・動作分析の知識):50% 小テスト(全合計点に対する得点率):10% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版 樋 典雄(☒ジカルビュー社)					978-4-7583-1136-6		
	運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版 樋 典雄(☒ジカルビュー社)					978-4-7583-1137-3		
参考書	基礎運動学 第6版 中村隆一他(☒歯薬出版)					978-4-263-21153-3		
教員からのメッセージ	講義、実習の理解には復習が必要です。内容を学生同士で再学習し、疑問は教員に尋ね、その都度理解していくこと。							
教員との連絡方法	研究室にて在室時間に対応。(可能な限り事前にメールにて連絡をすること) 山川敦史:liry-drg@hcu.ac.jp 岩本 優士:iwamoto@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	山川 敦史; 作業療法士として病院(入院・外来)および在宅(訪問)の臨床経験をふまえ、知見を交えた講義を行います。 岩本 優士: 作業療法士として病院(急性期・回復期)および地域での臨床経験をふまえ、知見を交えた講義を行います。							

科目コード	R5044	授業科目名	救急処置法					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	未定・未定・未定・未定							
授業の概要	理学療法士・作業療法士が急性期患者に安全にかかわるために、救急・集中治療患者の呼吸、循環を中心とした病態を理解する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							—
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							—
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							—
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	1)各種生体監視モニターについて理解する。 2)各種重症病態について理解する。 3)状態急変時、心肺停止時の対応について理解する。							
履修上の 注意事項								
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	身体の構造と機能(中枢神経、呼吸、循環) ()						
	第2回	身体機能の評価方法(生体監視モニターの見方) ()						
	第3回	急変時の対応と心肺蘇生法(1) ()						
	第4回	急変時の対応と心肺蘇生法(2) ()						
	第5回	呼吸不全と人工呼吸 ()						
	第6回	敗血症 ()						
	第7回	循環不全 ()						
	第8回	外傷と出血性ショック ()						
	第9回							
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
	第15回							
成績 評価方法	期末試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
参考書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト 救急救命士標準テキスト編集委員会(へるす出版)					978-4-89269-997-9		
教員からの メッセージ	配布資料の内容を理解し、病院実習前に再度読み返す。ミニテストを2コマ毎に行い、これにより成績評価を行う。							
教員との 連絡方法								
実務経験の ある教員								

科目コード	R5045	授業科目名	栄養学					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	三好 真理							
授業の概要	栄養学と健康問題の歴史について学修し、理学療法士・作業療法士を目指すものが栄養学を学ぶ意義について理解した上で、栄養素の働きに関する知識を学び、これら栄養素を含む食品とその働き、栄養素を身体に取り込む消化と吸収について修学する。さらにライフサイクルにおけるライフステージ別の食事と食生活について修学する。これらの修学を通し、医療に携わる人間として、必要となる栄養学の基礎、栄養管理の基本概念について理解を深める。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— △ ◎ △
到達目標	人は、健康でなければ社会貢献することは難しい。健康のためにまず必要なものは食事である。人体維持のために栄養素の補給は欠かせない。その栄養素を取り込むための消化・吸収、栄養素の働きについて理解をして、バランスのとれた食生活の大切さを自覚する。「何を食べるのか?」「何を食べないのか?」という食品の選択力を身につけることで、各自の「健康維持」に役立てる。							
履修上の注意事項	講義は、教科書と簡単なレジメで行いますので、教科書は必ず持参してください。授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	栄養学とは p13-27、p187-190 ・栄養の概念、歴史、栄養と人体の関係、食物成分と栄養素、保健、医療、福祉における栄養の役割					事前:指定ページを読む 事後:配布プリントを確認	
	第2回	栄養学の種類と働き p29-53 ・5大栄養素の種類や生体内での働き ・栄養素を含有する食品の賢い摂取について					事前:指定ページを読む 事後:配布プリントを確認	
	第3回	栄養素の生理 1 p57-73 ・食欲中枢の調節機能 ・食物を消化・吸収する仕組み					事前:指定ページを読む 事後:配布プリントを確認	
	第4回	栄養素の生理 2 p73-87 ・栄養素の代謝					事前:指定ページを読む 事後:配布プリントを確認	
	第5回	エネルギー代謝 p89-97、p177-183 ・人体エネルギー代謝のしくみ ・食事摂取基準について					事前:指定ページを読む 事後:配布プリントを確認	
	第6回	ライフステージと栄養 p99-120 ・ライフステージごとの特徴について ・ライフステージに合わせた適正な栄養摂取について					事前:指定ページを読む 事後:配布プリントを確認	
	第7回	栄養アセスメントp 123-138 ・栄養アセスメントの項目についての基礎知識を身につける 傷病者の栄養ケア1 p141-143 ・肥満と痩せ					事前:指定ページを読む 事後:配布プリントを確認	
	第8回	傷病者の栄養ケア 2 p143-164 ・非感染症患者の栄養管理、各種栄養補給の基礎知識 特別用途食品と保健機能食品 p167-172 ・食品の表示について理解し、購入時の選択力を身につける					事前:指定ページを読む 事後:第1回から8回までのプリントで栄養学の大切さを確認する	
成績評価方法	各授業の最後に配布する小記述レポート60%、期末の課題レポート40% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	楽しくわかる栄養学 中村丁次 (羊土社)						978-4-7581-0899-7	
参考書	健康と医療福祉のための栄養学 渡邊早苗他 (医歯薬出版株式会社)						978-4-263-70737-1	
教員からのメッセージ	図表の説明を教科書で行うので、上記教科書を受講前に読んで予習をしておくこと。							
教員との連絡方法								
実務経験のある教員								

科目コード	R5046	授業科目名	臨床心理学					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	河原 剛							
授業の概要	臨床心理学の多岐にわたる領域を展望するための基礎的な知識を概説する。また、臨床現場で実践されるカウンセリングの基本的な事項について、架空事例を織り交ぜながら紹介する。個人が抱えている心の問題、行動上の食い違い、人間関係の問題などを心理学的な知識と技術を用いて、適応的な方向にもっていくための心理学の方法や理論について学修する。心理学的な問題にはどのようなものがあるのか、心理アセスメント、臨床心理の理論と技法、心理的援助の技法などを中心に取り扱い、事例を通して臨床現場で働く者として望ましい治療援助のあり方を患者の立場から理解していく態度を身につける。医療現場にとどまらず、対人関係における傾聴力の育成に役立つ内容ともなっている。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							△
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	①臨床心理学について理解し、臨床現場で必要な知識を習得する ②対人援助に役立つ、心についての理論的枠組みや技術を会得する							
履修上の注意事項	①ほかの生徒の学習機会を損なう行為（主に私語）を禁止する。場合により退出要求や、評価の減点等の処置を行う。 ②講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。 ③遅刻・早退は避ける。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション(臨床心理学とは？)					前年度の心理学の講義を復習すること(60分)	
	第2回	臨床心理学の歴史と役割					臨床心理学の発展の背景にある歴史を振り返る(60分)	
	第3回	異常心理学と心理アセスメント(1)心理アセスメントの基礎について					自分が興味のあるアセスメント尺度を調べてみる(60分)	
	第4回	異常心理学と心理アセスメント(2)異常心理学に基づいた各精神疾患の理解					自分が興味のある精神疾患を調べてみる(60分)	
	第5回	異常心理学と心理アセスメント(3)うつ病についての異常心理学					うつ病の人にはどのような心理療法が適しているかを振り返る(60分)	
	第6回	発達障害・生涯発達上の問題について					青年期にあたる自身の発達課題を振り返る(60分)	
	第7回	力動的精神療法 フロイトの理論について					力動的精神療法における無意識とは何かを振り返る(60分)	
	第8回	クライエント中心療法 傾聴者に求められる3条件					傾聴者に求められる3条件を自身が満たせるか、満たせないとしたらどうすれば満たせるかを考える(60分)	
	第9回	認知行動療法(1)行動理論・認知理論の基礎 レスポンデント条件づけ・オペラント条件づけ					前年度の心理学講義における学習心理学を振り返る(60分)	
	第10回	認知行動療法(2)行動理論の実践 曝露療法					曝露療法を身の回りで活用できそうな場面を想像してみる(60分)	
	第11回	認知行動療法(3)認知療法の理論 ABC分析					自身の行動をABC分析してみる(60分)	
	第12回	認知行動療法(4)認知療法の代表的な技法 コラム法					自身の認知を振り返るためにコラム法に取り組む(60分)	
	第13回	認知行動療法(5)マインドフルネスについて					自宅でマインドフルネスに取り組んでみる(60分)	
	第14回	認知行動療法(6)PTSDに対するCBT					自身が危機介入の際にどのような役割を担いそうかを想像してみる(60分)	
	第15回	総括 まとめ					テストに向けた授業内容の振り返り(60分)	
成績評価方法	期末試験:60%, 毎回の授業の最後に課されるコメントシート:40% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
参考書	臨床心理学入門 岩壁 茂 他(有斐閣)(授業では使用しない)						9784641220034	
教員からのメッセージ	授業中は教員の言葉を一字一句メモする必要はなく、話を聞くことや内容について考えを深めることに集中する。日常生活の中で、講義中に学んだことを他者と議論することが望ましい。 オフィスアワー:水曜日12時～14時 連絡先:t26a_ur02ki@hotmail.com							
教員との連絡方法	① 受講票で質問 ② 講義前後に教室か講師室にて直接質問 ③ メール 講義時以外は基本的に在学していないので、上記の方法で隙を見て気軽に話しかけるように。							
実務経験のある教員	公認心理師として病院臨床、教育機関でのカウンセリングなどで様々な人の心の声に耳を傾けてきた教員が担当します。当該授業を通して臨床心理学の知見に触れ、人が生きていくうえで出会う様々な課題や生きにくさなどを、共に考え議論することで、“生きた教養”を身に付けることを目指す授業です。							

科目コード	R5047	授業科目名	リハビリテーション概論					
履修区分	必修	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	2単位
担当者	藤村 昌彦・江越 正次朗・宮崎 洋幸・平岩 和美・上川 紀道・川畑 なみ・谷岡 龍一・石倉 英樹・猪村 剛史							
授業の概要	リハビリテーションに関する基本的な概念や知識を学ぶ。 これからめざすリハビリテーション専門職(理学療法士及び作業療法士)の理解と専門職になるための学びへの意欲を高める。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							△
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	リハビリテーションが正しく理解できる。 障がいについて正しく理解できる。 リハビリテーション・マインドが理解できる。							
履修上の 注意事項	配布資料について、予備の配布は行いませんので、紛失等した場合は、各自の責任において、他の学生からコピー等で対応してください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	リハビリテーションの本質(藤村)					リハビリテーションの歴史について調べる(60分)	
	第2回	リハビリテーションの流れ、緒段階(宮崎)					リハビリテーション業務について調べる(60分)	
	第3回	リハビリテーションと倫理(宮崎)					倫理の重要性について調べる(60分)	
	第4回	障がいの捉え方 ICIDHとICF(谷岡)					障がいの本質について調べる(60分)	
	第5回	研究とリハビリテーション(石倉)					実際に研究論文をみる(60分)	
	第6回	内部障害のリハビリテーション(江越)					内部障害について調べる(60分)	
	第7回	予防的リハビリテーション(藤村)					予防の重要性について調べる(60分)	
	第8回	スポーツ障害のリハビリテーション(上川)					スポーツ障害について調べる(60分)	
	第9回	地域リハビリテーションについてⅡ(住環境整備の実際)(宮崎)					住環境整備について調べる(60分)	
	第10回	高齢者のリハビリテーション(平岩)					高齢者の心身について調べる(60分)	
	第11回	神経障害のリハビリテーション(猪村)					神経障害について調べる(60分)	
	第12回	認知症の作業療法(川畑)					認知症について調べる(60分)	
	第13回	精神疾患のリハビリテーション(川畑)					精神疾患について調べる(60分)	
	第14回	難病(終末期)のリハビリテーション(宮崎)					難病について調べる(60分)	
	第15回	ヘルスプロモーションについて(藤村)					ヘルスプロモーションについて調べる(60分)	
成績 評価方法	成績評価は期末試験(100%)で判定する。ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	プリント配布							
参考書								
教員からの メッセージ	授業へ積極的に参加してください。わからないことがあれば、随時遠慮なく聞いてください。知識をたくさん持ち帰り、疑問はその場で解決して持ち帰らないようにしましょう。鉄は熱いうちに打ちましょう。							
教員との 連絡方法	積極的にオフィスアワーを利用してください							
実務経験の ある教員								

科目コード	R5048	授業科目名	チーム医療論					
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	#N/A							
授業の概要	異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより、お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念、チームワークの難しさと効果、リーダーシップ、組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とクループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。医療福祉に関わる各専門職について、歴史、学問体系、役割、機能についての基本的知識を学ぶ。学科横断的に編成するチームによる事例検討を通して、チーム による問題解決プロセスを経験する。よりよいチームアプローチのために必要な要因について学習する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							△
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							—
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	1. チーム医療の重要性を説明できる。 2. 望ましいチームワークに必要な、基本的知識およびスキルについて理解し、その内容について説明できる。 3. チーム医療を構成する各専門職の役割や支援(治療)目標を理解し、その内容を説明できる。 4. 各専門職間の連携、協働の方法を理解し、医療、地域、福祉領域の連携の重要性を理解し、その内容を説明できる。							
履修上の注意事項	8回講義ですので、特に欠席しないよう体調を管理してください。 講義を欠席した場合、課題レポートが作成できないため評価点に影響することを予めご承知おきください。 出席確認はC-learningで行います。スマートフォンやノートパソコンなどC-learningを操作できるデバイスを持参してください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	チーム医療とは何かを概観し、チーム医療に必要な基本的知識およびスキルについて解説する(馬屋原)					講義内容に関するレポート作成(2時間)	
	第2回	医師の仕事とチーム医療における役割 (河野)					講義内容に関するレポート作成(3時間)	
	第3回	理学療法士の仕事とチーム医療における役割 (馬屋原)					C-learningに掲載される講義資料を用いた事前学習(1.5時間) 講義内容に関するレポート作成(2.5時間)	
	第4回	作業療法士の仕事とチーム医療における役割 (高島)					C-learningに掲載される講義資料を用いた事前学習(1.5時間) 講義内容に関するレポート作成(2.5時間)	
	第5回	言語聴覚士の仕事とチーム医療における役割 (本多)					C-learningに掲載される講義資料を用いた事前学習(1.5時間) 講義内容に関するレポート作成(2.5時間)	
	第6回	保健師の仕事とチーム医療における役割 (看護学科教員)					C-learningに掲載される講義資料を用いた事前学習(1.5時間) 講義内容に関するレポート作成(2.5時間)	
	第7回	在宅看護領域における看護師の仕事とチーム医療における役割 (看護学科教員)					C-learningに掲載される講義資料を用いた事前学習(1.5時間) 講義内容に関するレポート作成(2.5時間)	
	第8回	精神看護領域における看護師の仕事とチーム医療における役割 (看護学科教員)					C-learningに掲載される講義資料を用いた事前学習(1.5時間) 講義内容に関するレポート作成(2.5時間)	
	第9回							
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
	第15回							
成績評価方法	各回のレポート課題の点数を合計し評価いたします(各回10点×8回→計80点満点→100点換算→評価点) レポートの記載内容は、何を学んだのかを資料の書き写しではなく、教員が口頭で説明した内容を含めて簡潔に説明してください。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	使用しない							
参考書								
教員からのメッセージ	他部門の役割につて情報を得ることができる唯一の講義です。4年後に働いている姿を想像しながら聴講してみてください。 講義の最後に講義内容をまとめる時間を設ける場合があり、ノートパソコンやタブレット端末を使用しても結構です。 本講義は、宇品キャンパスと中継し看護学科との合同の講義となります。							
教員との連絡方法	馬屋原までお問い合わせください。 西風新都キャンパス、研究棟4階401号室 メールアドレス:uma@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	各専門分野または職種における臨床経験を有する教員が講義いたします。							

科目コード	R5049	授業科目名	公衆衛生学					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	牧田 亨介							
授業の概要	公衆衛生学の基礎として、予防医学についてその考え方と実践について学習する。業務の上でも日常生活でも重要となる感染症について、感染の基本的な機構を学び感染予防法について実践できるようにする。また、先進国で増加している生活習慣病について、それぞれの機序と生活に関連した予防法について理解する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ ○ ○
到達目標	・各種感染予防法を区別して具体的に述べられるようになる。標準予防策については確実に実践できるようになる。 ・主な感染症とその病原体について、病態の特徴や感染経路を理解し、それぞれの感染症の予防法を正しく挙げられる。 ・感染予防法としてのワクチン接種について、その意義や特徴について知識を得、適切な予防接種を促せるようになる ・生活習慣病について、疾患の種類ごとのリスク要因と予防法を知り、自己の生活の改善につなげられるようになる							
履修上の注意事項								
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	予防医学概論:疾患の種類、疾患予防の分類とリハビリテーション					社会医学・予防医学と治療医学の違いを理解する、一次/二次/三次予防がそれぞれどのような行為を指すかを確認する(60分)	
	第2回	感染症の予防(総論):感染のメカニズム、医療従事者と感染予防					感染がおこる3要素について具体的に示すものを理解する。医療従事者として、自身が感染したときにおこる影響を考え、感染予防意識を持つ(60分)	
	第3回	感染症の予防(各論):病原体/感染源 およびそれに関わる予防					消毒の方法を復習し、実態での病棟での消毒で使用する状況を想定する(40分)感染症法について最新の情報を調べ、臨床の場で注意すべきことを確認する(20分)	
	第4回	感染症の予防(各論):感染経路とその分類 およびそれに関わる予防					直接伝播/間接伝播による感染の具体例を想起し違いを理解する。病原体の侵入門戸となる体の部位とそれぞれに關係する感染様式を確認する(60分)	
	第5回	感染症の予防(各論):感染経路に関わる予防―標準予防策、経路別感染予防策					標準予防策について、衛生的手洗いを実行できるように手順を把握する。また医療機関を想定し、どのような物が湿性生体物質扱いになるかを考える(60分)	
	第6回	感染症の予防(各論):宿主要因とヒトの免疫機構 およびそれに関わる予防―予防接種					病原体の暴露から特異抗体が作られるまでの流れを復習する(30分)日本における予防接種の種類を調べる(30分)	
	第7回	感染症の予防(具体論):その他の感染症について・疾患の動態と予防策(1)					取り扱った感染症について、病原体・感染様式・その経路に応じた予防策を復習する(60分)	
	第8回	感染症の予防(具体論):その他の感染症について・疾患の動態と予防策(2)					取り扱った感染症について、病原体・感染様式・その経路に応じた予防策を復習する(60分)	
	第9回	感染症の予防(具体論):その他の感染症について・疾患の動態と予防策(3)					取り扱った感染症について、病原体・感染様式・その経路に応じた予防策を復習する(60分)	
	第10回	生活習慣病の予防(総論):慢性疾患の特徴、リスク要因と予防					慢性疾患について、急性疾患と比較して発症のための要素の差および性質の違いを理解する(60分)	
	第11回	生活習慣病の予防(具体論):がんの成り立ちとその予防					悪性腫瘍と良性腫瘍の違い、日本における近年の発症・死亡の動態を復習する。リスク要因・予防策をがん毎に整理して理解する(60分)	
	第12回	生活習慣病の予防(具体論):心疾患・脳血管疾患とその予防					高血圧疾患の基準、動脈硬化発生の機構を理解する。高血圧疾患および合併症についてリスク要因・予防策を復習する(60分)	
	第13回	生活習慣病の予防(具体論):糖尿病およびその他の代謝疾患とその予防					各代謝疾患の原因物質・リスク要因・予防策を復習する。糖尿等について関連するホルモンの働きと実際の病態を理解する(60分)	
	第14回	生活習慣病の予防(具体論):メタボリックシンドロームと特定保健指導					メタボリックシンドロームの診断基準を復習し、各要素単独の診断基準との差を理解する。対象者に対する特定保健指導の仕組みと意義を復習する(60分)	
第15回	生活習慣と健康増進:喫煙による身体への影響 まとめ:疾患の予防と健康増進					喫煙習慣によってもたらされる健康リスク、喫煙のデメリットを理解する(60分)		
成績評価方法	期末に実施する試験 100% ただし、授業内で提出課題・小テスト等を行った場合には最大30%程度の割合で組み入れる。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	資料と指定教科書は用いない。主に、疾患に関係する公的機関(厚生労働省、国立感染症研究所など)の公開情報を資料とする。授業の進行に合わせて外部の資料(元)を提示するので、必要な資料には各自でアクセスして参照すること。							
参考書	国民衛生の動向 2022/2023 「厚生指標」増刊 第69巻第9号 (厚生労働統計協会)						9784875118725	
	シンプル衛生公衆衛生学2023 ※2023年改訂予定							
教員からのメッセージ	学習の材料は身の回りにあります。新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症、生活習慣病などについて、報道されるいろいろな情報や、自身で実践している予防法などに改めて注意し、その意味を考え理解できるようにして下さい。							
教員との連絡方法								
実務経験のある教員								

科目コード	R5050	授業科目名	地域包括ケア論					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	平岩 和美							
授業の概要	介護が必要な心身状態となる事を予防することを介護予防といい、高齢になっても障がいがあっても住み慣れたところで暮らせる社会システムを地域包括ケアといいます。そのために行われている政策・制度・事業、関る職種や機関、それらの連携について講義します。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							△
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							○
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							◎
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	介護保険制度に関して対象者に説明できる。地域の健康課題と公的サービス計画の特徴を捉える事ができる。理学療法士、作業療法士として地域住民の健康を維持するための方策を立案できる。							
履修上の注意事項	配布資料に授業内容を書き込んでください。私語、携帯電話の使用を禁止します。授業中行う課題は評価に入りますので欠席しないこと。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	地域包括ケアの背景・日本の高齢化と社会保障					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による高齢化対策まとめ60分	
	第2回	介護保険制度の仕組み(1)概要					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による介護保険まとめ60分	
	第3回	介護保険制度の仕組み(2)ケアプラン					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるケアプランまとめ60分	
	第4回	介護保険制度の仕組み(3)在宅サービス					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による在宅サービスまとめ60分	
	第5回	介護保険制度の仕組み(4)関わる機関と施設サービス					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による施設サービスまとめ60分	
	第6回	地域包括ケアに関する社会資源(職種、主体)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による職種まとめ60分	
	第7回	地域包括ケアに関する機関と連携					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による機関まとめ60分	
	第8回	中間まとめ					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による前半講義まとめ60分	
	第9回	保健医療計画と対象地域の健康課題					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による保険医療計画まとめ60分	
	第10回	地域の特徴、広島県を中心として					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による地域の特徴まとめ60分	
	第11回	地域資源の特徴と活用					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による地域資源まとめ60分	
	第12回	介護予防事業の実際・住民活動立ち上げ支援					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による介護予防事業まとめ60分	
	第13回	認知症と介護予防					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による認知症対策まとめ60分	
	第14回	認知症と地域包括ケア					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による認知症対策まとめ60分	
	第15回	地域ケア会議、地域包括ケア発展のために必要なこと					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による地域包括ケアまとめ60分	
成績評価方法	期末試験。試験が困難な場合は提出課題を総合的に評価。ただし、6回以上の欠席(課題未提出)は評価の対象としない。2回の遅刻(課題提出の遅れ)は1回の欠席とみなす。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	介護予防・地域包括ケアと主体間連携 平岩和美 大学教育出版						978-4864294652	
参考書								
教員からのメッセージ	ニュース、自治体の広報、普段の生活で、介護や医療、社会保障について目を向けるようにしましょう。							
教員との連絡方法	平岩和美:309教員室 hiraiwa@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	平岩和美:理学療法士として地域包括支援センターと協力した介護予防立ち上げ支援、広島県地域保健対策協議会での保健事業の経験、介護支援専門員の知見を教育にいかします。							

科目コード	R5051	授業科目名	医療福祉と経済					
履修区分	選択	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	田中 雅康・古澤 泰治							
授業の概要	医療人として社会の役に立ち、自らもやりがいを持って医療人の仕事に取り組むためには、医療技術を会得するだけでは十分ではありません。職場となる病院の健全経営への取り組み、社会的役割、そして医療を取り巻く社会・経済状況を理解し、しっかりとした目的意識を持ちながら仕事に取り組む必要があるのです。また、そのような姿勢が医療人としての器を大きくしていきます。本科目では、より大きな社会の視点から医療サービスを考えていきます。〔田中〕 経営についての基本的な概念、手法等について理解するとともに、病院経営の仕組みについて演習を通して理解していきます。〔古澤〕 経済学の基礎であるミクロ経済学(およびマクロ経済学)を簡潔に紹介した後、医療保険制度がはらむ問題点を経済理論的に考察します。そして、保険市場の役割をリスクと情報の観点から考えていきます。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP: ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	〔田中〕 経営学の基礎知識を使って、企業や病院などの組織の行動を理解でき、簡単な解説ができるようになる。 〔古澤〕 経済学的思考により、医療をめぐる社会経済問題を論理的に考えられるようになることを目指します。							
履修上の注意事項	夏期集中講義のため日程については別途指示							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	企業経営の概要(田中)						
	第2回	経営管理の概要(田中)						
	第3回	日本的経営(田中)						
	第4回	病院経営の概要(田中)						
	第5回	病院経営の会計(田中)						
	第6回	創造力による改善(田中)						
	第7回	アイデア発想の演習(田中)						
	第8回	経済の仕組みと日本の医療問題(古澤)						
	第9回	需要と供給(ミクロ経済学の基礎)(古澤)						
	第10回	ミクロ経済政策と市場の反応(古澤)						
	第11回	市場の失敗とミクロ経済(古澤)						
	第12回	医療保険制度と医療市場(古澤)						
	第13回	医療保険制度改革の影響(古澤)						
	第14回	リスクと情報(古澤)						
	第15回	保険市場(古澤)						
成績評価方法	各担当教員が行う試験の合計点で評価する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
参考書	ベーシック経済学:次につながる基礎固め 古沢 泰治・塩路 悦朗(有斐閣)						978-4-641-12485-1	
教員からのメッセージ	〔田中〕 重要なことは何度も話すのでメモを取るようにしてください。 〔古澤〕 上記参考書を受講前に読んで予習しておく、授業への理解が格段に深まります。							
教員との連絡方法	〔古澤〕 furusawa@e.u-tokyo.ac.jp							
実務経験のある教員								

科目コード	R5052	授業科目名	人間福祉学					
履修区分	選択	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	未定							
授業の概要	人間福祉学の授業では、人間が社会生活を営むうえで欠かせない社会福祉について、その歴史と概念、制度・政策、社会生活をどのように支えているのかなどについて学修します。人生100年時代を迎えたいま、社会福祉は私たち人間が暮らしていくうえで、どのような意味があるのかを考え、実際の活用について事例をもとにその理解を図ります。日本国憲法第25条の生存権にとどまらず幸福追求権の保障など、これからのあり様についても考えます。社会福祉の理念と実体の問題、そして現在の社会福祉が直面しているさまざまな問題について学修します。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							◎
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							○
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							◎
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	①社会福祉とは何かを自分の言葉で説明できる。 ②「人生100年時代」の到来と地域包括ケアについて、自分の言葉で説明できる。 ③ICF(国際生活機能分類)を活用し、人と環境との相互作用の視点から問題を捉えることができる。 ④問題を包括的総合的に把握し、専門職として自らの立ち位置を説明することができる。							
履修上の注意事項	日頃から、新聞等を読み社会で起きていることを他人事とするのではなく、我が事として考えるようにしましょう。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	「社会福祉とは何か」① 社会福祉の概念を私たちの日々の暮らしと結び付け学びます。					社会福祉が私たちの日々の生活のどのようなところにかかわっているかを考えてきてください	
	第2回	「社会福祉とは何か」② 社会福祉に至るまでの歴史を学び、今後の課題を考えます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
	第3回	「社会福祉とは何か」③ 日々の生活の営みと社会福祉との関係について学びます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
	第4回	「社会福祉とは何か」④ 多職種協働による支援と共通言語としてのICF(国際生活機能分類)について学びます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
	第5回	「社会福祉とは何か」⑤ ケーススタディを通して、支援する際の思考過程を学びます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
	第6回	「地域包括ケアとは何か」① 地域包括ケアの源流について学びます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
	第7回	「地域包括ケアとは何か」② 地域包括ケアの現在の動向について学びます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
	第8回	「地域包括ケアとは何か」③ 全世代対応型の地域包括ケアについて学びます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
	第9回	「地域包括ケアとは何か」④ 精神障害にも対応した地域包括ケアについて学びます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
	第10回	「地域包括ケアとは何か」⑤ 地域包括ケアと今後の課題について学びます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
	第11回	「人生100年時代の到来と私たちの選択」① ライフシフトが意味するものを学びます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
	第12回	「人生100年時代の到来と私たちの選択」② 政府の対応と別の選択肢について考えます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
	第13回	「人生100年時代の到来と私たちの選択」③ 政府の対応と別の選択肢について考えます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
	第14回	「人生100年時代の到来と私たちの選択」④ 自ら未来を切り拓くために何をどのようにしていくのかを考えます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
	第15回	「人生100年時代の到来と私たちの選択」⑤ 自ら未来を切り拓くために何をどのようにしていくのかを考えます。					前回の授業で指示された課題を行ってくること	
成績評価方法	授業終了後のミニテスト30%、期末試験70%の割合で評価する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	資料を作成し配布予定。							
参考書	『「地域包括ケア」とは何か』金子努(幻冬舎)						978-4-344-91688-3	
	国民の福祉と介護の動向 2022/2023(第69巻第10号)(厚生労働統計協会)							
	『ケアとは何か』村上靖彦(中公新書)						978-4-12-102646-0	
教員からのメッセージ	人生100年時代を迎え、社会全体が大きな転換期を迎えています。人類が初めて直面する様々な課題を従来のやり方に捉われず解決していく発想の仕方や思考の方法を獲得するきっかけになるような授業を行っていきます。学生のみなさんの自由で柔軟な発想に期待しています。							
教員との連絡方法	①授業終了時のミニテストの質問・感想記入欄の活用 ②E-mail							
実務経験のある教員	社会福祉士、精神保健福祉士の資格を有しソーシャルワーカーとして医療現場等で実務に従事した経験のある教員が担当します。現場で起きていることを念頭に置きながら、問題を我が事として捉えどのように解決していくのか、その思考過程を獲得できるよう授業を行います。							

科目コード	R5053	授業科目名	社会と健康					
履修区分	選択	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	未定							
授業の概要	社会的、心理的、制度的な側面から健康であるということを考察していく。加えて、メンタルヘルス(精神保健)に関しそれぞれの年代のリスクファクターなどを学修し、社会におけるメンタルヘルスの重要性を理解する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							—
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							○
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							—
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							◎
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	健康とメンタルヘルスの諸問題を説明できる。 個人のストレスに対する対応について説明できる。							
履修上の注意事項	詳細な講義内容および担当教員は、オリエンテーションにて告知いたします。 配布資料について、予備の配布は行いません。紛失した場合や欠席した場合等は、各自の責任において、他の学生からコピー等をしてもらってください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション・健康とは(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第2回	健康リスクへのアプローチ(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第3回	ストレスとウェルビーイング(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第4回	ストレスコーピングについて(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第5回	ストレスへの対処方法について(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第6回	ソーシャルスキルトレーニングについて(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第7回	食生活とウェルビーイングについて(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第8回	身体活動とウェルビーイングについて(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第9回	感情と健康リスクについて(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第10回	行動と健康リスクについて(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第11回	発達・加齢に伴う健康リスクと支援について(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第12回	働く人の健康リスクと支援(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第13回	病気の知覚とその対処(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第14回	災害における健康リスクと支援(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
	第15回	まとめ(リハビリテーション学科教員)					事後学修:レポート作成(1時間)	
成績評価方法	レポート課題を集計して評価する(100%)。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	講義の内容に合わせ適宜紹介する。							
参考書								
教員からのメッセージ	資料を見て復習をしましょう。 新聞等で社会の動静等にも関心を持っていただけると理解しやすいでしょう。							
教員との連絡方法	各回の講義を担当する先生のオフィシアワー、C-learningの連絡機能、メールにてご連絡ください。							
実務経験のある教員	医療・福祉分野での実務経験のある教員が担当します。							

科目コード	R5054	授業科目名	ヘルスプロモーション論					
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	藤村 昌彦							
授業の概要	ヘルスプロモーションは世界保健機関が1986年のオタワ憲章において提唱した新しい健康観に基づく21世紀の健康戦略である。「人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにするプロセスである」と定義されている。疾病予防や介護予防、健康増進を含んだ包括的な理学療法を「ヘルスプロモーション理学療法」と定義されている。本講義では、すべての人々が健康的な生活を構築するための手法を学ぶ。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							△
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							○
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	作業療法士・理学療法士として、全ての人があらゆる生活場面で健康を享受することできるように指導・援助ができるようになる。健康増進・障害予防の手法を理解する。介護予防、生活習慣病を予防する身体作りの指導方法を習得する。医療機関だけでなく、地域でも活躍できる理学療法士・作業療法士を目指す。							
履修上の注意事項	配布資料について、予備の配布は行いませんので、紛失等した場合は、各自の責任において、他の学生からコピー等で対応してください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	ヘルスプロモーションの重要性を学ぶ					ヘルスプロモーションについて調べる(30分)	
	第2回	廃用症候群を予防して健康増進を図る					廃用症候群について調べる(30分)	
	第3回	骨粗鬆症を予防して健康増進を図る					骨粗鬆症について調べる(30分)	
	第4回	ロコモティブシンドロームの評価・対策を学ぶ					ロコモティブシンドロームについて調べる(30分)	
	第5回	加齢に伴う膝関節の障害を理解して健康増進を図る					変形性膝関節症について調べる(30分)	
	第6回	加齢に伴う腰痛を理解して健康増進を図る					加齢と腰痛について調べる(30分)	
	第7回	フレイルの評価・対策を学ぶ					フレイルについて調べる(30分)	
	第8回	喫煙が身体に及ぼす影響を理解して健康増進を図る					喫煙の有害性について調べる(30分)	
	第9回	【8回講義のため以下余白】						
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
	第15回							
成績評価方法	成績評価は期末試験(100%)で判定する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	プリント配布							
参考書								
教員からのメッセージ	授業へ積極的に参加してください。わからないことがあれば、随時遠慮なく聞いてください。知識をたくさん持ち帰り、疑問はその場で解決して持ち帰らないようにしましょう。鉄は熱いうちに打ちましょう。							
教員との連絡方法	211教員室(masafuji@hcu.ac.jp)							
実務経験のある教員								

科目コード	R5055	授業科目名	スポーツ理論と実技					
履修区分	選択	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	山口 浩二							
授業の概要	理論では、現代社会における健康・体力・運動の必要性について考え、メタボリックシンドローム予防に果たすスポーツ等(ニュースポーツ等)の役割や効果について学ぶ。 実技では、球技やニュースポーツ、その他の体力を高めるための身近な運動について理解を深め、安全に実践するための知識や技術について学ぶ。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							◎
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							○
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							△
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	運動やスポーツのルールと技能について、また自分自身が運動やスポーツを安全に実施するための方法を説明することができる。 技術力の高低やスポーツの好き嫌いにとらわれず、自分の持っている能力をいかして、スポーツそのものを楽しむ工夫をし、活用できる。							
履修上の注意事項	実技の場合は、必ずジャージと体育館用シューズを着用して出席してください。それ以外での出席は認められません。 講義では、資料を配布します。毎回テーマを設定し、授業内容に関するレポートを提出してもらいます。 人に迷惑をかけないよう、講義、実技とも私語、スマートフォンの使用、授業途中の入退室等は禁止です。ルールやマナーを守って主体的に取り組んでください。 ※受講者が多い場合は2クラスに分けることがあります。その際は、必ず指定された時限に受講してください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション～健康とは(講義)					事前:自己の経歴や生活習慣を伝える 事後:健康とはどのようなものかまとめる	
	第2回	運動とスポーツ(講義)					事前:スポーツはどのようなものか情報収集する 事後:運動とスポーツの違いをまとめる	
	第3回	スポーツの分類(講義)					事前:スポーツの種目をたくさん情報収集する 事後:スポーツの分類について整理する	
	第4回	体力を高める運動①(実技)					事前:体をほぐす運動についてイメージしておく 事後:学んだことを実践する	
	第5回	体力を高める運動②(実技)					事前:体をほぐす運動についてイメージしておく 事後:学んだことを実践する	
	第6回	球技①(実技)					事前:バスケットボールの技術を調べる 事後:どうすればたくさんシュートが入るか考える	
	第7回	球技②(実技)					事前:バレーボールの技術について調べておく 事後:楽しくゲーム(試合)する方法を考える	
	第8回	ニュースポーツ①					事前:ニュースポーツはどのようなものか調べる 事後:どこでできるか調べる	
	第9回	ニュースポーツ②					事前:ニュースポーツはどのようなものか調べる 事後:どこでできるか調べる	
	第10回	スポーツに親しむ方法①					事前:楽しく実施する方法をイメージする 事後:もっと楽しくする方法を考える	
	第11回	スポーツに親しむ方法②					事前:楽しく実施する方法をイメージする 事後:もっと楽しくする方法を考える	
	第12回	運動やスポーツの必要性(講義)					事前:なぜスポーツが必要なのか考える 事後:どこでできるか調べる	
	第13回	運動やスポーツへのかかわり方(講義)					事前:過去のスポーツとの関わりをまとめる 事後:将来のかかわり方を整理する	
	第14回	運動やスポーツの効果(講義)					事前:運動やスポーツの効果をイメージする 事後:運動やスポーツの効果を整理する	
	第15回	現代生活とスポーツ、まとめ(講義)					事前:現代生活の特徴をイメージする 事後:現代におけるスポーツの重要性をまとめる	
成績評価方法	最終レポート50%、授業内ワークシート(プリント)、課題レポート、小テスト(実技を含む)等50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	資料を配布します							
参考書								
教員からのメッセージ	自分の健康づくり、体力づくりにおいて、各自が目標を持って授業にのぞんでください。 運動やスポーツが苦手な人も楽しさやルールを知ることができるよう頑張りましょう。							
教員との連絡方法	授業終了後に、質問や相談を受け付けます。							
実務経験のある教員	専門学校の専任教員としての経験を活かし、健康や体力、運動やスポーツについての授業を行う。							

科目コード	R5056	授業科目名	アンチエイジング論					
履修区分	選択	開講期	1年	後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	加藤 みわ子							
授業の概要	抗加齢医学(アンチエイジング)とは、生物学的プロセスである加齢という現象にさまざまな介入を行い、動脈硬化やがんのような加齢に関連する疾患が発症する確率を低下させ、健康長寿を目座す医学と定義されている。わが国においては、医療に限らずあらゆる分野で高齢化の問題を避けることはできない。これからは病気になったら治療するのではなく、病気にならないように日頃から取り組むことが不可欠となる。そのための方法論はまだ発展途上であるが、現時点で得られる最新の知識を提供しながら、少しでも高齢化という社会問題に向き合う時間を設けたい。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							○
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							△
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつつける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							◎
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	この授業ではまず加齢が人体に及ぼす影響を理解し、次に加齢を臨床上に評価する方法について解説を行う。さらに加齢への介入方法として、食生活、運動、嗜好品、さらには薬物等の有効性、安全性について理解を深める。その結果として、自らの健康にも注意を払うことが可能となり、病者を診るだけでなく健康な人にも治療を行うことのできる人材を育成することを到達目標とする。							
履修上の注意事項	私語や他ごとに興じている者、寝ている者は欠席扱いとする。 資料はプリントを配布する。授業の途中で、小テストを行う場合があり、この小テストも平常点の評価対象となる。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	抗加齢医学(アンチエイジング)の定義					世間一般の「アンチエイジング」の捉え方を調べてまとめる(30分)	
	第2回	加齢という現象を理解する					アンチエイジング(抗加齢医学)の定義と疫学調査について復習する(60分)	
	第3回	加齢の検査・評価方法					抗加齢医学の臨症的な扱いとその評価方法について復習する(60分)	
	第4回	加齢と生活習慣					長寿社会と生活習慣について調べてまとめる(60分)	
	第5回	健康寿命とは何か					健康寿命と平均寿命の違いを復習し、健康寿命を延ばすために効果的な事象について調べてまとめる(60分)	
	第6回	健康寿命を延ばすために(1) ビックデータから					講義内で紹介された資料を視聴し、まとめる(90分)	
	第7回	健康寿命を延ばすために(2) 地域の取り組み					地方自治体や企業、団体の取り組みについて調べてまとめる(60分)	
	第8回	抗加齢医学の課題と展望					アンチエイジングについて、総合的にまとめて復習する(60分)	
	第9回							
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
	第15回							
成績評価方法	期末試験 65% 毎回の講義の後に課すレポート 35% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
参考書	アンチエイジング医学の基礎と臨床(第3版)日本抗加齢医学 (メジカルビュー社)						978-4-7583-0491-7	
教員からのメッセージ	期末試験はプリントに記載した事項だけでなく、授業中に解説した内容も含まれるので、毎回講義の後にプリント、ノートをきちんと整理しておくことが必要である。							
教員との連絡方法	まず、メールで連絡してください。その後、オフィスパワーを利用して、506研究室へ来てください。							
実務経験のある教員	臨床検査技師および認定心理士(調査)の資格を持ち、臨床経験のある教員が包括的に講義を行う。							

科目コード	R5057	授業科目名	人間の行動と健康					
履修区分	選択	開講期	2年	後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	高井 節夫							
授業の概要	人間の行動がどのように健康に関わりをもっているのか、その理論と実際を行動科学や健康行動理論から理解し、望ましいライフスタイルを築くための援助に必要な知識や技術を学習します。また、主な生活習慣病の事例を取り入れていきます。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							—
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							△
	※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	1. 人間の生活行動と健康の関連について述べられる。 2. 人間の健康に影響する行動特徴について行動科学の視点から述べられる。 3. 人間の健康に影響する行動のアセスメントについて健康行動理論の視点から述べられる。							
履修上の注意事項								
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	行動科学と行動変容、ヘルスプロモーション 行動と認知					自分の行動を変えてみようと思うことを考えておく。(60分)	
	第2回	行動科学の応用1)食行動と体重コントロール					体重がオーバーになる原因を考えておく。(60分)	
	第3回	行動科学の応用2)喫煙行動と禁煙サポート					何故人はタバコを吸うのか、周りにいるタバコを吸う人を思い浮かべてみる。(60分)	
	第4回	行動科学の応用3)睡眠の確保					自分の場合、どんな時に眠りやすいか、眠りにくいイメージしておく。(60分)	
	第5回	健康行動理論1)健康信念モデル 2)自己効力感					ヘルスビリーフモデルとセルフエフィカシーの和訳について調べておく。(60分)	
	第6回	健康行動理論3)変化のステージモデル 4)計画的行動理論					人の行動の変化には、変化するステージ、計画的行動には、やる気がどんなの意味をもつか考えておく。(60分)	
	第7回	健康行動理論5)ストレスとコーピング 6)ストレスシンドローム					自分にとってのストレスには、どのようなものがあるか思い浮かべておく。(60分)	
	第8回	健康行動理論7)ソーシャルサポート 8)コントロール所在					社会的支援にはどのようなものがあるか、物事の結果は何が決めるのかを考えておく。(60分)	
	第9回							
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
	第15回							
	成績評価方法	レポート80% 質問など授業態度20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。						
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	健康行動理論の基礎 松本 千明(医歯薬出版)					978-4-263-23337-5		
参考書								
教員からのメッセージ								
教員との連絡方法	最初の授業で通知する。							
実務経験のある教員								